

## 厚生省心身障害研究：「現行マス・スクリー ニングにより発見された患児の管理と長期予 後に関する研究」

### 神経芽細胞腫の予後

角田昭夫＊  
村松隆文＊＊

**要約：**マス・スクリーニングで発見された神経芽細胞腫 167人につき、予後を調査した。死亡は7人（4.2％）で、うち腫瘍死は僅かに3人である。

**結果：**1990年1月20日現在、京都府立医科大学小児科の登録センターで把握されている神経芽細胞腫マス・スクリーニング発見例は337人であり、うち167人について、予後成績が判明している。

(1) 病期別把握率（表1）：全体の把握率は44.3％であり、病期別にはⅡ、Ⅲ、Ⅳ-Aで50％以上、Ⅳ-B、Ⅳ-S期では40％以下の把握率であった。

表1 病期別把握率

病期	Ⅰ：	48/105 = 45.7%
病期	Ⅱ：	61/116 = 56.9%
病期	Ⅲ：	37/57 = 65.9%
病期	Ⅳ-A：	4/8 = 50.0%
病期	Ⅳ-B：	5/16 = 31.2%
病期	Ⅳ-S：	12/31 = 38.7%
全体	：	167/337 = 44.3%

(2) 予後調査期間（表2）：病期別、追跡調査期間別に167人を分類した。小児悪性腫瘍の危険期と考えられる2年を指標とすると、治療後2年を経過し治癒と考えられるものは、全体で96人である。この数値は全登録例337人の28.5％、追跡調査167人の57.5％に相当する。各病期別には

Ⅰ期 22/48 = 46%

Ⅱ期 36/61 = 59%

Ⅲ期 24/37 = 65%

Ⅳ-A期 2/4 = 50%

Ⅳ-B期 2/5 = 40%

Ⅳ-S期 9/12 = 75%

が調査できた患児中、2年以上経過し、生存していることになる。

(3) 死亡例の検討（表3）：7人の死亡者があった。この数値は全登録者337人の1.9

\* 神奈川県立こども医療センター

\*\* 京都府立医科大学小児科

％， 予後追及例 167 人の 4.2％に相当する。そのうち，腫瘍死は 3 人（各々 0.8％， 1.8％）のみであった（症例 1， 2， 3）。

腫瘍死 3 人の病期は，Ⅳ－A 期が 2 人，Ⅳ－B 期が 1 人である。Ⅳ－A 期の 2 人は手術が行われていない。化学療法は 3 人全部に行われ，放射線療法は症例 3 の 1 人のみに行われている。なお診断（治療開始）と死亡までの期間は 2 人が 3 か月， 1 人が 6 月であった。

症例 4, 5, 6, 7, の 4 人は腫瘍死以外の死亡例である。症例 4 及び 7 は手術が直接または間接の死亡原因となり，小児外科側に反省材料

を与えている（症例 4 は手術後日，手術侵襲による十二指腸潰瘍穿孔が死因と考えられた）。

症例 5 は初回入院中急に心停止，呼吸停止となり死亡したもので，剖検が行われていないため，死因は究明されていない。腫瘍+の状態であったが，主治医は腫瘍死を否定している。

症例 6 は治療後退院し，9 カ月後消化管出血で死亡している。死亡した施設が，始めに神経芽腫を治療した施設と異なるため，出血の原因や，出血の状態は把握されていない。

(4) 考察：マス・スクリーニングによって

表 2 病期別生存期間

	≤12月	≤24月	≤36月	≤48月	≤60月	>60月	計
I	16	10	9	7	3	3	48
II	13	12	7	12	13	4	61
III	4	9	9	9	5	1	37
Ⅳ－A	0	2	0	0	1	1	4
Ⅳ－B	0	2	1	2	0	0	5
Ⅳ－S	2	1	3	2	2	2	12
計	35	36	29	32	24	11	167

表 3 マス・スクリーニング発見神経芽腫死亡例

	性別	診断	原発	病期	手術療法	化学療法	放射線療法	死亡	死亡原因
1	♂	6月	O <sub>S</sub>	Ⅳ－B	+	+	－	12月	腫瘍死
2	♂	7月	O <sub>S</sub>	Ⅳ－A	－	+	－	10月	腫瘍死
3	♂	7月	O <sub>S</sub>	Ⅳ－A	－	+	+	10月	腫瘍死
4	♂	8月	O <sub>R</sub>	Ⅳ－S	+	+	－	9月	十二指腸穿孔
5	♂	6月	O <sub>S</sub>	Ⅳ S	+	+	－	8月	非腫瘍死 腫瘍(+)
6	♀	6月	O <sub>R</sub>	II	+	+	－	15月	消化管出血
7	♀	7月	O <sub>R</sub>	III	+	－	－	8月	術中死

発見される神経芽細胞腫は早期例が多く、治療成績が良いことが、今回の予後調査によっても確認された。

現在日本小児がん研究会の神経芽細胞委員会が登録と同時に予後調査も行っているが、今回の把握率は44%であり、今後その向上に向けて委員会の機能を発揮しなければなら

い。

更に治療方法の分析から、マス・スクリーニングによって発見される神経芽細胞腫の治療指針にも示唆が得られることになるかもしれない。手術に関連した死亡2を数えることは、小児外科の反省材料となった。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:マス・スクリーニングで発見された神経芽細胞腫 167 人につき, 予後を調査した。死亡は 7 人(4.2%)で, うち腫瘍死は僅かに 3 人である。